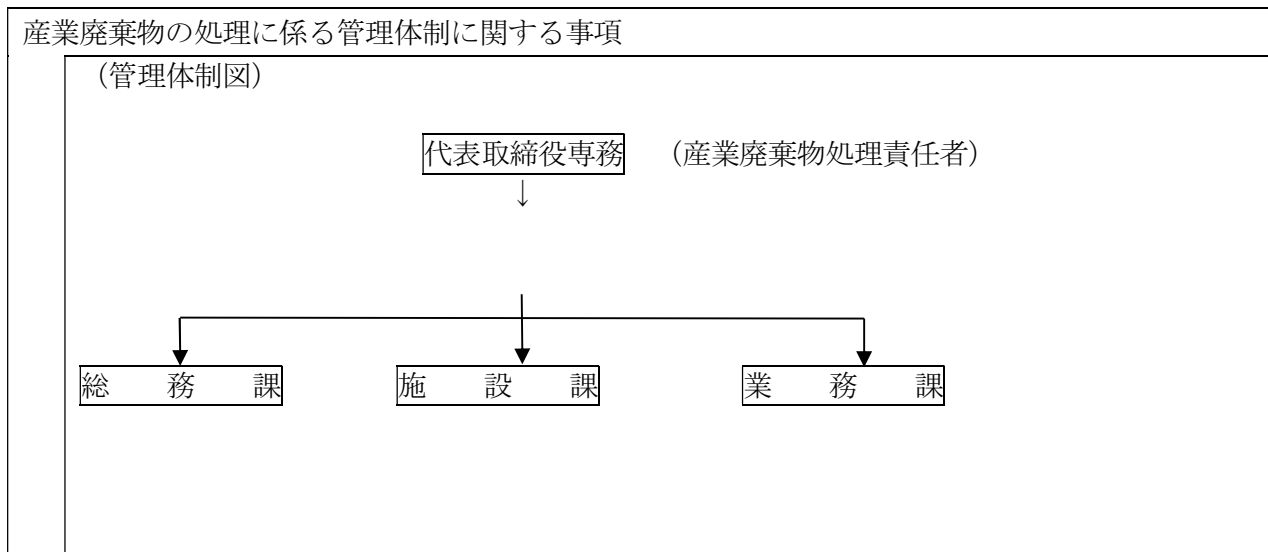


様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和4年6月16日	
豊橋市長 殿	
提出者 住 所 豊橋市明海町16番地の1 氏 名 (株)東三河食肉流通センター 代表取締役専務 杉江孝弘 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0532 (23) 2600	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	(株)東三河食肉流通センター
事業場の所在地	豊橋市明海町16番地の1
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	その他の製造業 (E32)
② 事業の規模	豚処理頭数 200,275頭、牛処理頭数 7,566頭 (R3実績)
③ 従業員数	16名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	汚水処理施設：汚泥→脱水後、再生利用業者に委託して肥料化及びセメント原料化 豚、牛のと畜解体処理ライン：動物系固形不要物 牛の特定危険部位→中間処理業者に委託して熔融加熱分解後、焼却処分 豚、牛の不要物→中間処理業者に委託して熔融過熱分解後、焼却処分 事業場全体： 廃プラスチック類：ロープ (牛係留用) →最終処分業者に委託して埋立て処分 その他→中間処理業者に委託して破砕後、焼却処分 金属くず→中間処理業者に委託して破砕後、再生利用 ガラスくず→中間処理業者に委託して破砕後、埋立て処分

(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度 ( 3 年度) 実績】 別紙1のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 別紙1のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙1のとおり
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙1のとおり

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 3 年度）実績】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2 年度）実績】 別紙3のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
③ 計画	【目標】 別紙3のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 3 年度）実績】別紙4のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】別紙4のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 3 年度）実績】別紙5のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

③ 計画	【目標】 別紙5のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

## 産業廃棄物の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和3年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動物系固形不要物	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず
	排出量	16,380 t	1,507 t	3.6 t	0.5 t	0.0 t
	（これまでに実施した取組） ・汚泥 汚水処理施設の適正な維持管理。 余剰汚泥発生量を抑制する薬剤の投入テスト。					
② 計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動物系固形不要物	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず
	排出量	16,300 t	1,420 t	5 t	1.0t	0.3 t
	（今後実施する予定の取組） ・汚泥 汚水処理施設の適正な維持管理をして余剰汚泥の発生抑制に努める。 余剰汚泥発生量を抑制する諸方法の情報収集及びテスト。					

## 産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくずは専用のコンテナを設置し分別、保管している。廃プラスチック類については各々、処理方法が異なるため、コンテナに具体的に名称を明記し3基設置してある。
③ 計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 分別、保管を継続維持していく。

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和3年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動物系固形不要物	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 実施していません。						
④ 計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動物系固形不要物	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量出量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 実施する予定はありません。						



## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

		【前年度（令和3年度）実績】					
		産業廃棄物の種類	汚泥	動物系固形不要物	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず
現状	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量		0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量		15,435 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	<p>（これまでに実施した取組）</p> <p>・汚泥</p> <p>高効率の脱水機に交換し、脱水汚泥の含水率が従来よりも減少し、中間処理量の増加につながった。</p> <p>脱水汚泥の含水率を簡易水分計にて測定し、脱水機の適正な運転管理を行う。</p>						
		【目標】					
		産業廃棄物の種類	汚泥	動物系固形不要物	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず
② 計画	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		15,300 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	<p>（今後実施する予定の取組）</p> <p>・汚泥</p> <p>脱水汚泥の含水率を簡易水分計にて測定し、脱水機の適正な運転管理を行う。</p> <p>脱水用凝集剤の選定テストを行い脱水汚泥の低含水率化による中間処理量の増加を図る。</p> <p>現状、中間処理は脱水機のみだが、その後段処理として乾燥機や発酵処理施設などの検討を行う。</p>						

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和3年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動物系固形不要物	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0t	0t	0t
	(これまでに実施した取組) 実施していません。					
② 計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動物系固形不要物	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 実施する予定はありません。					

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

		【前年度（令和3年度）実績】					
現状	産業廃棄物の種類	汚泥	動物系固形不要物	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず	
	全処理委託量	945 t	1,507 t	3.6t	0.5t	0.0t	
	優良認定処理業者への処理委託量	459 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	再生利用業者への処理委託量	945 t	0 t	0 t	0.5 t	0 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	(これまでに実施した取組) ・汚泥 処理委託先を再生利用業者へ変更した。						
		【目標】					
③ 計画	産業廃棄物の種類	汚泥	動物系固形不要物	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず	
	全処理委託量	980 t	1,420 t	5t	1.0t	0.3t	
	優良認定処理業者への処理委託量	490 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	再生利用業者への処理委託量	980 t	0 t	0 t	1.0 t	0 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
(今後実施する予定の取組) ・汚泥 再生利用業者への処理委託を維持していきたい。							
※事務処理欄							